

無菌治療部

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

部長（教授）	神田 善伸（兼）
医員（教授）	室井 一男（兼）
	森本 哲（兼）
（准教授）	鈴木 隆浩（兼）
（講師）	大嶺 謙（兼）
	翁 家國（兼）
病棟医長	藤原慎一郎（兼）
	佐藤 一也（兼）
（助教）	岡塚貴世志（兼）
	畑野かおる（兼）
	早瀬 朋美（兼）
	翁 由紀子（兼）
	蘆澤 正弘（兼）
	川原 勇太（兼）
	山本 千裕（兼）
	新島 瞳（兼）
シニアレジデント	6名

2. 無菌治療部の特徴

平成16年9月に本館4階南病棟に無菌治療部病棟が開棟し、平成22年4月14日付で骨髓移植推進財団に「無菌治療部」として承認された。

当部は、血液科、輸血・細胞移植部、小児科の医師から構成されている。無菌治療室管理加算を満たすクラス100の病室4床とクラス10,000の病室4床を有し、高度な無菌管理が必要な患者であればどの診療科も利用できる中央施設部門である。

急性白血病、骨髓異形成症候群、悪性リンパ腫等の難治性血液疾患を対象とした造血幹細胞移植を行っており、長期間の骨髓抑制や免疫不全状態のため易感染状態にある患者を入室適応としている。

・認定施設

- 非血縁者間骨髓移植認定施設
- 非血縁者間末梢血幹細胞移植認定施設
- 非血縁者間臍帯血移植認定施設
- 非血縁者間骨髓採取認定施設
- 非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設

・認定医

- 造血細胞移植学会造血細胞移植認定医
神田 善伸 他3名
- 日本輸血学会認定医
室井 一男 他2名

3. 実績・クリニカルインディケーター

入院患者数（移植種類別）

		* 括弧内は小児科
年間総数（平成27年）	71件	
血縁骨髓移植	5件（3件）	
非血縁骨髓移植	12件	
血縁末梢血幹細胞移植	32件（1件）	
非血縁末梢血幹細胞移植	0件	
臍帯血移植	7件（3件）	
自家末梢血幹細胞移植	15件（5件）	

平成27年12月までの造血幹細胞移植総数は541件を数える。骨髓バンクを介した非血縁者間造血幹細胞移植総数は197件、臍帯血バンクを介した非血縁者間臍帯血移植総数は68件となった。

年間毎の移植数は30件前後で推移していたが、平成25年43件、平成26年46件、平成27年71件と年々移植件数の増加を認めている。

造血幹細胞移植法の多様化に伴い新しい移植法の導入を試みている。平成27年にはHLA半合致血縁者間移植を5件施行した。

対象疾患内訳（平成27年）

		* 括弧内は小児科
急性骨髄性白血病	17件（1件）	
急性リンパ性白血病	11件（3件）	
骨髓不全症候群	14件	
骨髓増殖性腫瘍	4件	
悪性リンパ腫	14件（1件）	
多発性骨髓腫／類縁疾患	4件	
固形腫瘍	6件（6件）	
原発性免疫不全症	1件（1件）	

治療成績

骨髓移植推進財団が解析（平成14年1月～平成18年12月）した移植認定診療科ごとの非血縁者間骨髓移植成績で、当院は、初回非血縁者間骨髓移植後1年生存率が72.5%（リスクグループ5段階中4、予想生存率61.9%）であった。

平成19年1月から平成26年12月まで間に実施された初回同種造血幹細胞移植154件において、全体では1年生存率58.3%、5年生存率45.8%、急性骨髄性白血病75件では、1年生存率62.9%、5年生存率42.8%、急性リンパ性白血病28件では、1年生存率70.1%、3年生存率44.7%、骨髓異形成症候群25件では、1年生存率

72.4%、5年生存率54.3%であった。

4. 事業計画・来年の目標等

年々、造血幹細胞移植件数が増加をしていることや無菌病室8床での運用をしていることから徐々に需要に供給が追いつかない状態となっている。そのため、平成28年3月に4階西病棟4人床4室（16床）をクラス10,000の無菌病室に改修を予定している。改修により無菌病室は計24床となり、当施設および近隣他施設の造血幹細胞移植適応患者に対して速やかに対応できるようになると思われる。

当部は、自治医科大学附属さいたま医療センター血液科や関東造血細胞移植共同研究グループと連携し、臨床研究を通じて造血幹細胞移植診療におけるエビデンスの確立に取り組んでいる。特に、本邦では十分に普及していないHLA半合致移植法の確立に取り組んでいる。平成27年には臨床試験として、低用量アテムツズマブを用いたHLA半合致移植を1件実施した。平成28年も数例の実施を予定している。

平成26年3月より同種移植後患者を対象とした移植後長期フォローアップ（LTFU）外来を開設し、看護師と協力し同種移植後患者の晩期障害管理の向上に取り組んできた。平成27年には延べ46回のLTFU外来を実施した。平成28年はスタッフを増員し、LTFU外来の確立および質の向上を目指している。

平成27年11月より、看護師による造血細胞移植コーディネーターの業務を開始し、患者やドナー及びそれぞれの家族の支援を行っている。日本造血細胞移植学会認定造血細胞移植コーディネーターとしての資格取得に向けて準備を進めている。

造血幹細胞移植では、多職種との連携が必要であり、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、（平成27年より）歯科衛生士にて週1回の造血幹細胞移植カンファレンスを実施している。職種間での情報交換を通じて、質の高いチーム医療の実践を目指している。

当部が参加している主な臨床研究

- ・低用量アテムツズマブ併用HLA不適合同種造血幹細胞移植の安全性と有効性の検討
- ・GVHD予防法に抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリンを用いたGVH方向HLA一抗原不適合血縁者からの造血幹細胞移植療法の多施設共同第II相試験
- ・未治療症候性多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、シクロホスファミド、デキサメタゾンによる導入療法、自家末梢血幹細胞移植療法およびレナリドミドによる地固め療法・維持療法に関する有効性と安全性の検討
- ・多発性骨髄腫に対する同種造血幹細胞移植後のレナリドミドを用いた維持療法の安全性の検討
- ・再生不良性貧血に対する低用量抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリンを用いた同種造血幹細胞移植療法の有効性と

安全性の検討

- ・高齢者造血器腫瘍に対するフルダラビン・全身放射線照射を前処置とした同種移植療法